

ゆめ わらわ 夢 立堂

菅波 茂

2013年3月14日。ネパールのブドワールに1998年に開設したシッタルタ母と子の病院に新たに増設した周産期病棟の竣工祝賀式に出席した。今回の増設は外務省の日本NGO連携無償資金協力の補助金をAMDAグループのAMDA社会開発機構が受け竣工に至った。98年の開院以来、首都のカトマンズ以外では唯一の母と子の専門病院である。

運動、松下電器産業労働組合、東京渋谷ライオンズクラブ、生活協同組合コープこうべなど阪神地域をはじめとする多くの毎日新聞読者の方々の募金により1998年に設立に至る。

93年からネパール・タン難民医療支援プロジェクトに参加して亡くなる間際まで尽力してくれた。そして設計は安藤忠雄氏がボラントリーアでしてくれた。初代院長のラメシュワル・ポカレル医師（AMDAネパール支部創設者）は3年間カトマンズを離れ悪戦苦闘してくれた。関係者の方々に改めてこの紙面をかりて感謝したい。

援、大阪ガス「小さな灯」

母と子の病院の周産期病棟竣工式に参加して



AMDAネパール支部のメンバーと筆者（中央）

グラデシユ友好病院（内視鏡手術、心臓外科や脳外科などの高度医療）と強化する。

2014年秋にインドのブツガガヤに開設予定である日本・インド友好病院（小児心臓外科）と当病院（周産期医療）の相互協力体制である。現実的には、三つの病院間の医療情報・技術・人的交流の推進である。この3者間協力の支援としてAMDAがこれまでに各国の医科大学と締結している包括協定が生きてくる。各国の医科大学の臨床実習関連医療施設となれば多国間医療協力の場ともなる。

二つは南アジアや西アジアの災害被災者救援活動のためにAMDAインターナショナル直属の各病院からAMDA多国籍医師団に医療チームを派遣することである。いずれの国も過去に災害が多発している。この三つの病院が災害拠点病院としてAMDA多国籍医師団

病院建設後も毎日新聞各社会事業団はじめ多くの方々のご支援をいただき、AMDA兵庫県支部やAMDA社会開発機構などAMDAグループの協力のもとに、ネパール西部では重要な病院として発展。年間出産数は3000を超え。

現在の医師数21名。看護師57名。職員の総数は149名。ベッド数は1

54床である。周産期医療と看護体制の強化が今後の目標である。現在では、高知大学医学部に前者、岡山県立大学に後者などの支援をいただいている。ピノー現院長の岡山済生会病院での1年間研修も付記したい。

祝辞として二つの夢を紹介した。一つはバングラデシユのダッカに94年に設立された日本・バン